

担当 《 算数少人数 》

武蔵野市立第五小学校

<p>学力調査と学校経営方針からみた授業改善の方向性【言語活動の充実】</p>	<p>各教科等における言語活動の充実を中心とした指導の実際</p>
<p>《学力調査から》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「聞くこと」は高い意欲があり、「交流」を活用するとよい。 ○「身の回りのことをグラフや表で整理して考える」活動を各教科で推進する。 ○「分からないことや興味をもったことを進んで調べる」活動などを発展的な学習に入れる。 <p>《言語活動の充実に向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①体験から感じ取ったことを表現する ②事実を正確に理解し伝達する ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり、活用したりする ④情報を分析・評価し、論述する ⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する ⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる <p>《言語活動の指導の在り方》</p> <p>(1)知的活動(論理や思考)に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事実を正確に理解し、他の人に的確に分かりやすく伝える ○事実等を解釈し説明するとともに、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させる <p>(2)コミュニケーションや感性・情緒に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○互いの存在についての理解を深め、尊重していく ○感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を交流したりする 	<p>○学習の見通しと学習の振り返りの工夫</p> <p>(見通し)問題の答えを予想させ、予想を確かめ解決するための方法を、前時の復習やそれまでの既習学習を基に考えさせる。考えの筋道を絵・図・表・グラフ・言葉・式などを用いてノートに表現させ、説明させる。</p> <p>(振り返り)毎時間、学習で分かったこと、初めて知ったこと、疑問に思ったことをノートにまとめさせ、発表させる。</p> <p>○言語環境を整える工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの意見や考えを尊重し、学び合う意欲や態度が生かされる環境づくりをする。 ・日常言語の遣い方、話型の指導(～です。理由は～だからです)をし、自分の考えを適切に表現できるようにする。 ・問題解決のために言語活用したくなる動機や場面を意図的に設定する。 <p>○自分の考えをもたせる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の解決過程を重視する学習指導を行い、問題に対して子どもが主体的に取り組めるようにする。 <p>(問題の理解 → 予想 → 課題をつかむ → 課題の解決 → 問題の解決 → 練習 の学習単元の流れ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程は1つではなく、多種多様な方法で問題解決に向かえるようにする。 ・1人1人の考える時間を確保し、個人思考の時間を大切に自分の考えをもたせる。 <p>○言語活動の具体的な工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おや?」「なぜ?」という学習意欲をもたせる問題提示を行い、子どもに答えの予想や考え方の見通しがもてるようにする。その予想を基に図や言葉、式を用いながら、計算の仕方や解決の方法を見出させるようにする。また、過不足や空欄がある問題提示をして解決方法を思考する工夫をする。 ・考えを発表させる際、全員に説明する機会を与える。1人の子どもの発表の続きを他の人に言わせたり、まとめたり等の工夫をしながら、友達が何を説明したかったのか考えさせることで、より理解が深まるようにする。 ・1人が発言した言葉の意味をクラスみんなで考える時間をとり、ばらばらにもっていたイメージを共有化し漠然と捉えていたものを言語化させる。 ・分かったことや気付いたことを周りの友達と相談したり確認したりする時間をとり、自分の考えを友達に伝え合い、学び合う態度を育てる。子どもたちは様々な方法で自分の気付きを表現していくようにする。 ・児童が多様な考え方をしたり、論理的な考え方ができるように教師の言葉かけを工夫する。 ・問題の共通性や発展性に気付かせ、既習の学習や法則を手がかりにして考えたり、“もしかすると”と推量して考えたりするような発問を工夫する。